

# 令和4・5年度始良・伊佐地区研究協力校「学力向上」 湧水町立栗野小学校研究公開

## 1 研究主題

確かな自分の考えをもち、伝え合う力を高める授業の創造

～国語科の説明的文章の学習を通して～

## 2 研究発表

子供が、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解する力を高めることができるようにするために、全職員で研究に取り組んだことが紹介されました。研究内容、具体的な取組については、以下のとおりです。



【研修係による研究発表の様子】

### (1) 説明的文章を正しく読み取ることができるための工夫

- ・ 各種学力調査や単元テストから、子供の実態を分析
- ・ 単元ごとにある重点指導事項を系統的に習得  
→ 「読むこと 単元系統表」の作成

### (2) 考えを交流させる学習活動の工夫

- ・ 課題に迫るための導入の工夫  
→ 学習の見通しをもたせ、学ぶ必然性がある課題の設定
- ・ 活動の場のデザイン  
→ 実態やねらいに応じて、グループを編成したり、誰と学ぶのかを決めさせたりして、伝え合いの活性化を企図
- ・ 対話で学びを深める工夫  
→ 対話を行いやすい雰囲気の醸成、叙述を基にした対話の促進
- ・ 効果的な学びの振り返り  
→ 「どのような学習方法を行えば、課題に迫ることができたか」について振り返らせ、伝え合う活動のよさや意義を実感

### (3) 今後に向けて

- ・ 子供たち自身で学習課題等を設定して、主体的に学びを深める姿を目指すためには、どのような手立てが必要かについて、研究していく。



## 3 公開授業

研究を具現化した検証授業として、西村愛美教諭が2年生国語「だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう『おにごっこ』」の授業を、中村真也教諭が4年生国語「きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう『ウナギのなぞを追って』」の授業を行いました。

### (1) 2年生「おにごっこ」

単元の中盤に位置する本時は、これまでの学びを踏まえ、「てつなぎおにはみんなが楽しめるおにごっこか考えよう。」という問いを解決していく授業でした。子供は、「あそび方」と「おもしろさ」が書かれているところを教科書から見付け、互いに確認するとともに、誰にとってのおもしろさなのかを、全員で学び合っていました。自分の考えの広がりを実感している子供の姿が見られました。



【2年生の公開授業】

### (2) 4年生「ウナギのなぞを追って」

単元の終末に位置する本時は、「興味の中心にそって、『ウナギのなぞを追って』を要約しよう。」という問いのもと、授業が進められました。同じ興味を抱いた子供同士でグループをつくり、要約文をまとめたり、読み合ったりしながら、よりよいものに仕上げようとする子供の姿が見られました。また、効果的な伝え合いの場の工夫も見られました。



【4年生の公開授業】

## 4 分科会

「授業における『活動の場のデザイン』をどのように設定するか。」という視点から、授業研究が行われました。

グループ協議では、参加者が、授業参観で見取った子供の学びの姿や教師の働きかけ等から授業を分析し、研究の成果や課題、活動の場の設定の工夫、これまでの実践事例の発表、今後の展望等について、活発に意見を交わしていました。



【分科会の様子】

### 参加者の感想から

#### 〔研究発表について〕

- ・ 子供がもった「自分の問い」を解決するための学びのデザイン（個に応じた手立て）、学習内容と学び方を振り返るのは大切だと再認識した。
- ・ 学びの場づくりについて考えさせられた。どうするか自分も考えてみたい。

#### 〔研究授業について〕

- ・ 子供と向き合い、一生懸命授業をしている姿を見て、きっとこの研究公開までに授業のことを学んでこられたことと思った。（2年生）
- ・ ワークシートを交換して、互いのよい点やアドバイスを記入し、伝え合う活動は表現力の向上につながりそうだった。（4年生）

#### 〔授業研究・分科会について〕

- ・ このような学習が、これからの多様性に富み、情報のあふれる社会を生きていく上で、子供たちによき力を付けていてくれるのだろうと思った。
- ・ 子供自身に、自分に合った学習形態や解決方法、学び方を選択させた上で課題に取り組ませることは、自己調整力を高める意味でも意義深いと改めて感じた。